



年頭所感

新春 特別寄稿

公益財団法人
かごしま産業支援センター
理事長

六反 省一氏

ろくたん・しょういち

「プロフィール」

昭和49年10月 鹿児島県採用
平成13年4月 同総務部国際交流課長
16年4月 同総務部広報課長
17年4月 同商工観光労働部次長(観光・労働担当)
18年4月 同企画部次長(中長期政策等担当)
19年4月 同北薩地域振興局長
20年4月 同商工労働部長
21年4月 同企画部長
24年3月 同退職
24年4月 鹿児島県教育委員会教育長
27年3月 同辞職
27年6月 株式会社鹿児島頭脳センター代表取締役
27年7月 公益財団法人かごしま産業支援センター理事長

皆さまそれぞれに清々しい新年をお迎えのことと存じます。

門松は紙、鏡餅はスーパー、おせちは宅配、年賀状はメールなどお正月の定番風景にも時代の変化を感じますが、それでもやはりお正月となると一段と気持ちが引き締まります。新たな一年に物事が一新する期待が湧きますし、元旦の日の出に新たな意欲が沸き立ちます。典型的な日本人だということでしょうか。

今年は酉年でトリが主役です。鳥津いろは歌に鳥を取り上げた一首があります。「やわらぐと いかるをいわば 弓と筆 鳥にふたつの翼とを知れ」。優しさと厳しさ、外交と武力。鳥に二つの翼があるように、リーダーたる者はバランス感覚が必要だと説いています。一翼に偏りがちな気短な私としては心にとめておきたい歌です。

去年は世界を激動させる「まさか」の出来事

謹んで新年の
お慶びを申し上げます。

が相次いだ一年でした。今年もその余波が続きます。去年の出来事には両翼を調整するバランス感覚よりも一翼への偏重感覚が勝利を収めた印象を受けました。一翼偏重の傾向を強めている背景には、グローバリズムとSNSなどネット社会の進展もあるように感じます。

だとすると一翼偏重の傾向は今年も続くのでしょうか。年明けから少々不安です。神頼み的な願いですが今年あたりは、できれば「他者を思いやる国・日本」から、バランス感覚を重んじる思想や知恵が生み出され、世界に広がることを期待したいものです。

さて、鹿児島相互信用金庫様(以下親しみを込めて「そうしん」と略させていただきます)には、昨年がかごしま産業支援センターの取り組みに格別のご支援とご協力をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。

金融機関を取り巻く環境が厳しさを増している中であっても変わることなく、地域密着型金融機関として、地域の中小企業経営者と正面から向き合い、経営者の挑戦をしっかりお支えし、故郷鹿児島の経済発展や地方創生に多大なるご貢献を積み重ねておられることに深く敬意を表します。

安倍内閣は地方創生を目指していますが、地域の元気とか活気というのは、地域の経済活動の勢いに大きく左右されます。「そうしん」がお取引先企業とまさに二人三脚で歩まれていることは、経営者の皆さまのお話から日頃実感しているところです。

設立50年超の三紘会、25年超のT O B O会、20年超のブレン21、10回超開催された「食・観商談会」、そして昨年新たに設立された創業者倶楽部など支援の取り組みは多岐にわたっています。これらの会合は、いずれも企業活動への支援の一環であるとともに、経営者同士の研鑽や交流・情報交換の場ともなっており、地場中小企業の元気おこしの源になっています。

県内には成長可能性をもった中小企業がたくさんあり、やる気に満ちた経営者もたくさんおられます。しかし、ヒト(人材や人手)・モノ(設備や資材や商品)・カネ(資金や資産)・情報(業界動向や流行や支援策)の全てが不足気味であるのが中小企業であるとも言えます。

その足りなさを補う企業支援策の一つとして、「そうしん」はそう倶楽部室、海外貿易相談室に加えて、いち早くお客さまサポートセンターも作られています。まさに、地域密着型金融を推進する仕組みとして、本部による営業店支援体制の整備をはじめ、外部機関との連携体制や人材の育成、ノウハウの蓄積を計画的に整備してこられたと感じます。

私ども産業支援センターも中小企業の経営支援に全力で取り組んでいます。最大の課題は私どもの支援内容が県下の経営者の皆さまに十分に周知されているとは言えないことです。

経営者の皆さまは忙しい。考えることもたくさんあります。助成金を申請したい、専門家に自社をよく見てもらって改善のアドバイスをもらいたい、取引先開拓のために東京や海外の展示会に出展したい。経営者として取り組みたいことは山ほどあるのに誰にどう相談したら良いかわからない。このような悩みを良く聞きます。

私たちもマスコミの皆さまのご協力をいただき、新聞やテレビ、ネットや広報誌等を活用して

「こんな支援策がここにありますよ」と広報活動に力を入れています。「知らなかった」とか「分かりにくい」と言った意見を良くいただきます。情報を求めている人に必要な情報を浸透させることの難しさも実感しています。

そこで、私たちは企業経営者の意欲や経営の実情によく精通しておられる金融機関の皆さまとの連携による共同での支援に大きな期待を寄せています。そして「そうしん」とは昨春、パートナーシップ連携協定も締結させていただきました。

おかげさまで、去年は「よろず支援拠点」という無料経営相談、「プロフェッショナル人材戦略拠点」という人材誘致支援などに、「そうしん」から多くのお取引先企業をご紹介賜り、一緒に支援をさせてもらう機会をたくさんいただきました。支援させていただいた企業の皆さまの成長が今年の楽しみです。

地域経済にとって金融機関は、血液を送り込む心臓のような役割だと聞いたことがあります。心臓が強くなければ走れないし、緊急時に耐えられません。「そうしん」には大きくて強い頼りがいのある心臓になっていただきたいと思います。

また、金融機関は企業情報に通じ、学官の支援機関と橋渡しができる極めて良いポジションに位置していると思います。地方創生は誰かが実現してくれるものではなく、オール鹿児島で県民みんなの力を合わせて取り組まなければなりません。地域密着型金融機関として地場の中小企業と二人三脚で歩まれている「そうしん」の皆さまと一緒に地域経済の発展と地方創生に邁進したいと思います。今年もよろしく願いいたします。